

サービ斯拉ーニングから得たこと

社会福祉学部社会福祉学科 2年 吉富 彩佳

活動先：NPO 法人 ネットワーク大府

クラス：原田 正樹 先生

1. 自分の成長と気づき

この1年間のサービ斯拉ーニングの活動を通して、自分で考える力やコミュニケーション力が高まった。活動のはじめの方は、自分で今この利用者さんにはどのように接していけばよいのか、自分はどのように動けばよいのかなど、今思うとうまく考えられていなかったと思う。また、話しかけたり会話を広げたりなど、コミュニケーションもぎこちなかった。スタッフさんに、もっと積極性をもった方がよいと言われてしまったりした。

毎日違う事業所に行かせていただき、毎回初めての利用者さんと関わっていくということで、初日の活動を終えた後とても残りの活動が不安になった。だが、せっかく活動させていただくのに不安ばかりで様々なことを学ぶ機会を失ったり、楽しめないのはもったいないと思った。そのため、初日のうまくいかなかったところを改善し、利用者さんやスタッフさん、そして自分にとっても気持ちのよい活動にしていかなければならないと強く感じたのである。自分に足りないものを考え、それをこれからどう改善していけばよいのか、悩んだりしながら、自分なりにこれからの活動で気をつけることなどを決めた。利用者さんやスタッフさんの指示を待っているだけでなく、自分からどう動いたらスムーズにいくのか考えること、わからないことや意見がほしい時には、自分から積極的にスタッフさんに聞くことである。それらは当たり前のことであるが、当たり前のことができなければ、その先には進めない。そして、それができればより意味のあるサービ斯拉ーニングができるのではないか、と思ったのである。

そのようなことを意識しながら活動を進めていくと、利用者さんに対して自分が何をすることが最善なのかを考えることができるようになったり、どのようなことを話して利用者さんとの距離を縮めていくのかなどが、少しずつわかるようになっていった。そのため、自分から動くことが前よりできるようになったり、利用者さんと1日で縮められる距離も変化した。1日目にいただいた言葉は、はじめは少し落ち込んだが、伝えていただいて本当によかったと思っている。

この6日間のサービ斯拉ーニングの活動を通して、自分で考えて行動することの大切さや、コミュニケーションの難しさと重要性、利用者さんやスタッフさんに、こうしてほしいと言われる前に、状況をみて柔軟に行動することの難しさと大切さを学ぶことができた。

そのような学びから、1つは視野を広くもつことの大切さに気づくことができた。自分から行動するためには、視野を広くしてまわりの状況を読み取らなければならない。難しいことだが、それによって危険を回避できたり、利用者さんに気持ちよく過ごしていただくことに繋がるのである。スタッフさんは視野を広くもつことができている、利用者さんも安心して過ごされていると感じた。安心して過ごしていける環境づくりは、とても重要なことである。自分も利用者さんに安心して過ごしていただけるように、これからさらに成長していきたいと思った。

また、2つめに子どもたちとの関わりの中で、相手の立場に立って考えることの大切さにも改めて気づいた。自分だったらどう思うのか、このような行動をするときは自分ならどういう気持ちのときなのか、考えながら接していくことで、同じ目線で関わることができたり、よりよい関係を築くことができるのだと思う。

そして、3つめに相手とよい関係を築くためには、笑顔が大きな役割を果たすということである。レクリエーションのときなど、自分がいっぱいになってしまってそれが顔に出してしまうと、利用者さんにも伝わってしまい、利用者さんも楽しめなくなってしまう。笑顔でいることで、利用者さんにより楽しんでいただけるのである。コミュニケーションをとるときも同様に、笑顔なく話しかけられてもなかなか利用者さんに心は開いていただけないし、楽しんでいただけない。人と関わるときに、表情にはとても注意しなければならないと思った。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や市民活動

ネットワーク大府は、地域に必要なものを見つけたらいち早く対処していくが、それは常に地域との関わりを持っているからである。どれだけ規模が大きくなっても、住民のニーズを把握し、そのニーズを満たす努力を行っていて、それはNPO法人という枠を超えて社会福祉法人を取得するということにも表れている。サービスラーニングのテーマの1つである「協働」に、大きく繋がることである。

NPO法人としての活動には、どうしても制限がでてきてしまう。NPO法人だけでは解決できない問題を解決していくためには、NPO法人同士の繋がりや、大きな社会福祉法人や行政などいろいろな機関との繋がり、市民運動など市民の小さな活動と繋がりが必要になる。いろいろな機関や活動と連携していくことで、様々な長所と短所を補い合って、地域の問題を解決することができると思う。それぞれの情報の共有や、それぞれが協力して地域に働きかけることが重要である。

市民もそのようなNPO法人やその他の機関の働きに興味をもち、支援をしたり協力する姿勢が求められると思う。自分には福祉は関係ないという意識や、誰かがしてくれるだろうというような意識では、住みやすい環境づくりができない。市民が自分たちの地域を、よりよくしていくのだという意識をもつべきである。その意識から、例えばNPO法人の会員になって金銭的に自分のできる範囲で援助したり、地域のごみ拾いのような比較的誰でも参加しやすいボランティアを行ったりと、市民にできる活動はたくさんあると思う。また、近所の高齢者と顔を合わせたら、あいさつをして少しでもコミュニケーションをとるようにするなど、地域の繋がりづくりにも市民は積極的になっていくべきだと思う。これからは、市民自身がより行動を起こしていくべきである。